

お月様

K T 生

お月様はお座敷の時計のやうに圓い顔、

お庭の壁の上にくづくまつてる泥棒や

街や畑や港口、それらの上を照します、

小枝の茂みに眠つてる鳥の上をも照します。

ん、

晝間は寢床でグウ〜と鼾かいてる蝙蝠さん、

是等の連中は月明りあかるいおもてが大お好き。

けれども晝間起きてゐておめゝを覺まして
居るものは

お月様に知らん顔、まあなくなつて寢て了ふ。

花はおめゝをつぶります、子供もおめゝを

つぶります、

あしたになつてお日様がおめゝ覺まして

のぼるまで。(スチブンソン)

ニヤア〜ニヤア〜ニヤア猫さん、

チユウ〜チユウ〜チユウ鼠さん、

お家の前の戸の傍でワン〜吠えるワン〜さ

餘所の國

さくらの幹によぢのぼり

木登り出来るは坊ばかり。

兩手で幹をかゝへつゝ、

眺め見渡す餘所の國。

花の澤山咲いて居る

となりの庭がすぐそこに、

これまで見掛けたことのない

たのしい場所も目に入る。

空の青さをてりかへし

ゑくぼをよせて川が行く。

上り下りのほこりみち

人が町へと歩いてる。

木さへ高けりや何處までも

舟の浮んだ海ばらに

育つた川が流れ込む、

そんなとこまで見える筈。

どの道行つてもお伽國。

五時に御馳走が食べられて、

おもちゃが生きてるお伽國、

そんなとこまで見える筈。(スチアンソン)